



# 家畜市場 価格の推移

(1月)

## ▼子牛価格(三次家畜市場)

(単位:円・頭・kg・%)

種類	入場頭数	成立頭数	取引率	最高価格	最低価格	平均価格	体重
スモール	雌	6	6	100.0%	181,440	21,600	65,520
	雄	153	142	92.8%	140,400	1,080	87,056
計	159	148	93.1%	181,440	1,080	86,244	65
F1	雌	217	206	94.9%	300,240	72,360	245,956
	雄	274	268	97.8%	392,040	57,240	302,502
計	491	474	96.5%	392,040	57,240	277,511	67
ホルス(5才) 雌	42	42	100.0%	436,320	91,800	248,914	767

## ▼搾乳素牛価格(北海道)

(単位:円・頭)

市場	開催日	出場頭数	成立頭数	成立率	最高価格	最低価格	平均価格
南北海道	11日	97	85	87.6%	1,135,080	537,840	832,464
豊富	18日	216	197	91.2%	1,100,520	651,240	912,150
根室	21日	416	365	87.7%	1,402,920	550,800	938,005
釧路	22日	298	242	81.2%	1,189,080	646,920	909,324
北見	23日	303	259	85.5%	1,089,720	572,400	928,058
十勝	24日	657	617	93.9%	1,580,040	543,240	997,001
合計		1,987	1,765	88.8%	1,580,040	537,840	919,500

## 業務報告 (1月分)

- 4日 新年五礼会
- 8日 山内酪農部会新年会
- 8日 中国生乳販連会員実務責任者会議
- 9日 乳代精算システムあり方検討会
- 10日 東部DMS入力会
- 10日 西部・高宮DMS入力会
- 10日 備北・南部DMS入力会
- 11日 甲奴郡酪農組合役員会
- 16日 強い農業づくり交付金等にかかるブロック会議
- 16日 第二回生産基盤強化対策委員会
- 17日 西部ミルク会新年会
- 17日 ヘルパー調整会議
- 18日 第九回理事会
- 21日 西部地域地区懇談会
- 21日 高宮地域地区懇談会
- 22日 改良同志会三次支部総会
- 23日 三次工業団地新春臨時総会
- 23日 東部地域地区懇談会
- 23日 北広島町との意見交換会
- 24日 南部地域地区懇談会
- 25日 備北地域地区懇談会
- 25日 ほほえみ会総会
- 28日 全酪連大阪支所管内会議
- 28日 グリーンウインズさとやま取締役会
- 28日 広島県農協農政協議会他
- 28日 東部倉庫土地境界線確認
- 29日 三次市酪農振興会役員会
- 29日 甲奴郡酪農組合総会
- 29日 公共機関に対する生乳受託契約に係る説明会
- 30日 庄原地域酪農振興会新年会
- 30日 あきたかた酪農振興会新年会
- 31日 相続・事業継承支援対策研修会
- 31日 東部DMS入力会
- 31日 広酪リンカル推進(三十一日迄)
- 31日 山陽乳業(株)取締役会・臨時株主総会
- 31日 広酪ホルスタイン改良同志会総会
- 31日 高宮DMS入力会

## 編集後記



▼広酪は、去る一月二十一日から二十五日の五日間に亘り、県内五箇所の会場で地区懇談会を開催し、参加された組合員から参考となるご意見を頂戴しました。誠に有り難うございました。

▼今回の地区懇談会には、新たに後継者として酪農経営に携わる若者や、平成三十年中に経営継承した若い組合員の参加もあり、大変頼もしく嬉しく感じました。

▼この一方で、これまでに開催した地区懇談会で、闊達な発言をしてもらっていた組合員の顔がみえず、寂しくもありました。

▼例年ですと次回の地区懇談会は、六月に開催する予定ですが、組合員又その後継者等、家族揃って参加戴きたいと願っております。

▼地区懇談会では、上期の業務執行や経営状況、次年度の乳価交渉結果や生乳受託契約の手続き、役員改選時期の到来、新たな乳成分・衛生的乳質の格差金評価テーブル、県内JAによる組織合併などを説明しました。

▼一月三十一日には、次年度の生乳受託契約の締結に向けて、既存契約の全生産者百二十一戸から、生産生乳の全てを広酪に委託することの選択を頂戴しました。

▼この総量は、年間四万四千七百二十トンとなっておりました。この数字は、当年度の実績見込みの四万二千八百六十二トンを超えるものであり大いに期待したいものです。

▼しかし、本誌巻頭記事に記述のとおり乳用後継雌牛の単年度保留率に照らして考えてみても、この数値達成の精度に少々疑問を抱いてしまっています。

▼生乳生産量の低下は、酪農経営力の縮小、また、組織力の低下に直結するも

## 市町別生乳受託量の進捗状況(1月)

(単位:トン)

市町名	生乳生産量	生産占有率	前年比(同月)	30年度累計	前年比(累計)
庄原市	877.7	24.4%	103.1%	8,501.0	97.0%
世羅町	608.5	16.9%	101.1%	6,059.6	99.9%
三次市	501.9	13.9%	79.7%	5,635.4	84.5%
北広島町	450.1	12.5%	104.2%	4,623.8	102.9%
安芸高田市	326.6	9.1%	89.8%	3,262.7	86.7%
東広島市	317.7	8.8%	102.1%	3,223.3	101.5%
府中市	184.9	5.1%	83.8%	1,982.8	93.3%
福山市	120.3	3.3%	89.0%	1,192.1	90.5%
三原市	70.6	2.0%	85.9%	772.2	95.6%
広島市	65.0	1.8%	84.9%	724.8	90.5%
呉市	57.6	1.6%	104.4%	510.0	96.2%
神石高原町	20.3	0.6%	127.1%	204.3	90.8%
合計	3,601.1	100.0%	95.4%	36,692.0	94.7%

※公共機関からの生乳受託数量は除く。

## プール乳価(1月分)

プール乳価	110.6083円
前月分プール乳価	110.0356円
前月対比	100.5%

## 生乳生産量など前年同期比較(1月分)

前年対比区分	戸数	構成比	増産乳量(kg)
生乳生産量が100%以上に達した組合員戸数	57戸	48.3%	260,124.9
生乳生産量が100%未満となった組合員戸数	61戸	51.7%	-206,878.0
合計	118戸	100.0%	53,247

注)この比較は、平成30年11月の生乳出荷のあった組合員を基準に示しています。(廃業組合員は含まない)

## 生乳受託実績(1月)

地域	備北	南部	西部	東部	合計
生乳出荷組合員戸数(戸)	36	10	37	35	118
生乳出荷量(トン)	1,208.1	375.3	841.7	1,176.0	3,601.1
前年同月対比(%)	90.7%	102.5%	96.5%	97.6%	95.4%
前月対比(%)	102.2%	102.8%	99.3%	101.1%	101.2%
生乳出荷累計(トン)	12,473.6	3,733.3	8,611.3	11,873.8	36,692.0
広酪構成比(%)	34.0%	10.2%	23.5%	32.4%	100.0%

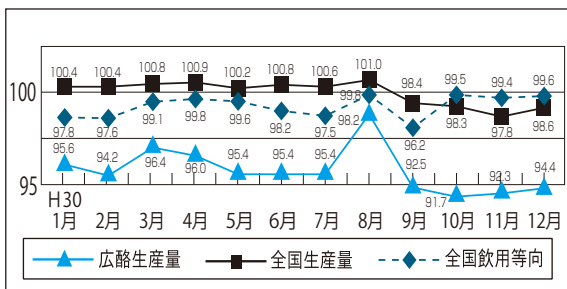
※公共機関からの生乳受託数量は除く。

## 市町別の生乳出荷組合員

## による購買品利用高の状況(12月)

No	市町名	購買品利用高(千円)	生乳出荷量(トン)	購買品利用占有率	生乳1kg当たりの購買品利用高(円)
1	庄原市	44,601	861	31.5%	51.80円
2	三次市	29,718	487	21.0%	61.02円
3	安芸高田市	17,774	330	12.5%	53.86円
4	府中市	12,932	184	9.1%	70.28円
5	北広島町	11,362	452	8.0%	25.14円
6	福山市	7,413	117	5.2%	63.36円
7	世羅町	6,568	606	4.6%	10.84円
8	東広島市	4,460	313	3.1%	14.25円
9	三原市	3,852	72	2.7%	53.50円
10	神石高原町	1,841	19	1.3%	96.89円
11	広島市	797	66	0.6%	12.08円
12	呉市	430	52	0.3%	8.27円
	合計	141,748	3,558	100.0%	39.84円

## 生乳需給の前年比推移(12月)(単位:%)



▼これを実行出来るか否かは、生産者(酪農家)組合員の創造から生まれるものと考えますが如何でしょうか?  
(A・N)

▼生乳生産量のアップにあたっては、経産牛一頭当たりの平均生産日量を現行の二十三・八kgから段階的に引き上げる手法と、乳用後継雌牛の単年度保留率を総じて三十%以上に引き上げることを持続的に取り組み、これを支える策が必要と考えます。

▼この策を、生産者(酪農家)組合員の皆様と広酪と一緒に考えて、この策を講じることで互いにとって様々なメリットが生じることを創造したいものです。

▼顧みて、広酪が掲げるキャッチフレーズに「おかげさま、やり甲斐生き甲斐酪農八〇二〇」がありますが、これを支える手段として、平成二十六年年度に新たな製法を組み入れたTMR飼料の供給を掲げ、組合長は、これを「一丁目一番地」におき、「一円でも安く、良いエサ」の供給に取り組んできました。

▼おかげさままで、飼料用稲WCSを原料に使用した「広酪TMR20WCS」の利用者も増え、特に、夏場の乳成分である乳脂肪率は、酷暑日が続いた今年度にあっても、三・八%以上を維持でき、利用者からの評価を得ることが出来ました。

▼広酪のTMR飼料は、一応成功したものと評価して戴けるならば、このことに慢心せず、次なる若齢預託施設の運営から、生産者の就労時間軽減などで貢献出来ないものが脳裏を回想します。